

「一人じゃないって気づいた」時の私

岐阜市立岐阜西中学校 3年

和田 莉奈

突然ですが、みなさんに質問です。過去に自分が1人だと思ったことはありますか？

例えば、スポーツをしている中で、2人でプレーする時に1人になってしまうことがある。学校で1人になってしまう、話す人がいない。しかし、これは本当に1人だと言えるのでしょうか？これから私が過去に経験した事と、皆さんに今伝えたいことを話します。

私は、小学1年生の頃からバレーボールをしてきました。きっかけは友達のお母さん同士の仲がよく一緒にやらないか、と誘われたことです。私は、今まで9年間バレーボールをしてきました。バレーボールは協力してプレーをするので常に仲間とのコミュニケーションが必要不可欠な競技です。しかし、私は団体競技が得意ではありませんでした。プレーをする中で常に仲間と声を出しあってコミュニケーションを取ることが恥ずかしくて、なかなかすることができませんでした。

私は小学1年生の頃からバレーをしていましたが試合の日に近づくにつれてコーチの指導は厳しくなり、仲間だんだんおいていかれるようになりました。私は徐々にバレーの練習へ行くのが嫌になってしまい、バレーの道を遠ざけるようになりました。私が、バレーの練習に毎週行くようになったのは、小学4年生の頃からでした。久しぶりに行ったバレーには、知らない子達がたくさんいて、なんだか自分が孤立しているように感じました。さらに、コーチが新しくなり、私は練習にもついていけませんでした。そして、私はいつしかスタメンからはずされていました。その時の私には、悲しいというより強い嫉妬心がありました。「他の子よりも早く入ったのに、どうして、なんで。自分の方が上手いはずなのに……。」私はスタメンからはずされてしまったため練習も反対側のコートで見ることしかできませんでした。そして、小学校生活最後のバレーを迎えた私の視線の先にあったのは、コートの中ではなく、ベンチから見たコートの景色でした。途中で入れ替わって出るわけでもなく、ずっとベンチ席から応援していました。ベンチ席で仲間の戦う姿を見て、今までの練習態度、そしてバレーの道を遠ざけていた自分に後悔をしました。

後悔した私は、その悔しさを強みに変えようと、中学で必ずスタメンになることを目標として、日々ボール拾いやサーブ練習を小学生でやった頃の2倍努力しました。その結果、1年生の新人戦でスタメンに入ることができました。この時の私が挫けずバレーを続けられたのは、家族のおかげです。母は、私に言いました。「大丈夫、莉奈には家族がいるから。味方がたくさんいるよ、あなたは1人じゃない。必ずやり遂げる子だよ。期待しているよ。」この言葉のおかげで、バレーを続けることができています。そして母は、「自分は1人じゃない」とこの言葉で教えてくれました。私はチームメイトと真剣に練習をして、めげずに頑張る続けること、スタメンに入るための努力をし続けることができました。この母の言葉は私の「宝物」です。そして今ではこの言葉を練習の前に思い出して、自分を勇気づけています。今、私は3年生。中学校生活最後の年となりました。高校まで1年もない中、本気で向き合い、バレーに対して決して手の抜くことがないようにしています。なぜなら、高校でもバレーを続けて、自分と仲間を共に作り上げたい、そう思ったからです。だから私はこれからも日々努力をし、自分が自分の中の最高地点に立てるまで頑張ります。

最後に私が皆さんに伝えたいことをお伝えします。最初に質問したことを覚えていますか。忘れている人もいます。だからもう1度言います。「過去に自分が1人だと思ったことはありますか。」あると思った人、決して恥ずかしくありません。誰だって1人になることはあります。でも必ずあなたを救ってくれる綱があるはず。あなたの隣には絶対あなたを守ってくれる人がいます。もし1人でいて辛い時悩んでいる時は自分の心に手を当てて、息をゆっくり吸って「大丈夫」と自分に言い聞かせてみてください。その「大丈夫」があなたを救ってくれます。そして、次の道へと導いてくれます。私は皆さんが次なる道へ歩み続けて行くことを願っています。